

ごあいさつ

沖縄県衛生環境研究所長 国吉広典



所長 国吉広典

平成25年4月1日付けで所長に就任いたしました。衛環研ニュースの紙面を借りてご挨拶申し上げます。

現在の衛生環境研究所は、昭和55年8月に竣工し今年8月で築後33年になります。

この間多くの先輩方が本研究所において職責を果たされ、県民の公衆衛生の維持向上に寄与してきたものと思いますが、当時先進的な研究所であった施設も老朽化が著しく、近年の検査技術や検査機器の専門化・高度化に対応するには厳しい状況となってきました。

一方、新型インフルエンザをはじめとする新興感染症やO-157等による大規模食中毒の発生、地球温暖化に起因する新たな保健衛生上の問題、原発事故に伴う放射能問題、PM2.5のような環境汚染、健康被害の不安など、県民の生命と健康を脅かす様々な事態の発生が懸念されており、衛生環境研究所に期待される役割はこれまで以上に大きくなっています。

このような状況もあり、今年3月には研究所施設の建替えが決定しました。新施設の建設予定地は、現在の南城市大里から沖縄本島を北に約25kmのうるま市兼箇段を候補地とし、現在、平成26年度末の竣工を目途として準備が進められているところであります。

去る5月には「衛生環境研究所整備に係る基本計画」を策定しました。この基本計画は「心豊かで、安全・安心に暮らせる島」、「沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切にする島」という沖

縄21世紀ビジョンに掲げられた、めざすべき将来像を見据え、研究所の役割・機能を十分に発揮し、かつ効率的な組織運営を図っていくための施設整備に係る基本的な考え方を取りまとめたものです。

これまで本研究所では、①試験検査、②調査研究、③研修教育、④公衆衛生情報等の収集・解析・提供の4つの基本的な機能により、県民の公衆衛生の向上、並びに環境の保全に努めてきたところでありますが、新たな施設を整備するに当たっては、複雑化・多様化する健康危機事例に迅速かつ的確に対応するため、4つの機能の更なる充実を図るとともに健康危機管理の科学的かつ技術的拠点としての機能を充実強化することとしています。

また、新しい研究所は前述した機能を十分に発揮できる施設となることを前提として、感染症法等の基準を満たすなど安全性の確保を最優先すること、健康危機情報の収集・解析・発信機能を一元化できる情報システムを整備すること、環境負荷の低減に配慮した施設とすること、一般県民に開かれた研究所とすることなどを基本的事項とし、社会状況の変化にも柔軟に対応できる施設として整備することとしています。

公的研究機関として、様々な健康危機管理事案や環境問題に迅速かつ的確に対応し、各種行政施策の推進にも確実に下支えできる『魔法の研究所』を創るため、職員一丸となって努力していきます。関係各位のご理解、ご支援、ご協力をお願いいたします。